

会 議 記 録				
会 議 の 名 称	決算特別委員会 総務文教分科会			会議場所 全員協議会室
				担当職員 井上
日 時	令和2年9月11日(金曜日)			開 議 午後 5時15分
				閉 議 午後 5時48分
出席委員	◎山本 ○松山 三上 浅田 木村 木曾 石野			
執行機関出席者				
事務局	山内事務局長、井上事務局次長			
傍聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可・ <input type="checkbox"/> 否	市民 1名	報道関係者 0名	議員 3名(平本、小川、福井)

会 議 の 概 要

17:15

1 開議

(事務局日程説明)

<事務局次長>

本日は、事務事業評価選定事業の論点整理を願う。

事務事業評価は、事業の目的や手法、成果、コスト、方向性を視点として評価を行っていただくが、時間の制約もあるため、事前に論点とすべきことを委員間で整理しておく必要がある。当日、この論点に沿った質疑を行い、限られた時間の中で適切な評価ができるよう、本日これから、論点整理を願うものである。

2 案件

○事務事業評価選定事業の論点整理について

<山本委員長>

それでは、事務事業評価選定事業ごとに、論点を整理願う。

(1) 移住・定住促進経費(移住促進施設事業)

(事務局から論点整理資料の説明)

(執行部提出の評価資料の確認)

<木曾委員>

前回の評価は廃止ということになったが、移住希望者に来ていただき、宿泊してもらおうという内容になっている。現状、宿泊も含めて、令和元年度の実態はどうか。亀岡に移住者がどれだけ増えたのか。

<山本委員長>

令和元年度の宿泊も含めての実態と、移住者がどれだけ増えたかということ論点としてよいか。

<事務局次長>

主管課提出資料中の実績欄に数値が記載されている。

<木曾委員>

当初、直営であったが、令和元年度から指定管理者に委託している。4年目で委託

料がゼロになる予定であるが、スケジュールどおりにいつているのか。

<山本委員長>

委託費の中で運用できたかということによいか。

<三上委員>

選定理由は、毎年見守っていくということである。前年度からどうなったのか。今年にはコロナのことがあるので、今日の説明でもまたお金を入れないといけないかもしれないとも言っていた。そのような状況では、委託料を減らしていくこともできない。木曾委員が言われたように、毎年の実績と、この後1年、2年、3年の見通しに合っているのかということだと思う。施設稼働率は、前年度比142%と書いてあるが、採算がとれているのかわからない。それも聞いてみたい。

<松山副委員長>

超過収益についての補填について、前回議論した中でのポイントだったと思うので、それも聞きたい。

<木村委員>

18人が移住体験利用者であるが、実際は誰も移住されていない。目的は移住定住してもらうためのものだが、ほとんどが観光であり、18人来てもらったが成果は上がっていない。それは論点だと思う。

<木曾委員>

目的に合致した利用方法になっているかどうかである。

<三上委員>

成果として移住者5人と書いてある。

<山本委員長>

委託する中での実績と今後の見通し、目的に合致した事業になっているかということ、超過収益への補填の実態の3点を論点としてよいか。

— 全員了 —

(2) 文化振興経費

(事務局から論点整理資料の説明)

(執行部提出の評価資料の確認)

<三上委員>

令和元年度決算の審査であるので、SDGsには関わらないで論じなければならない。SDGsがあろうがなかろうが、霧の芸術祭というプラットフォームを作り、いろいろな人、モノ、金がやってくるものを作ろうとしているということは間違いないが、行政がどこまで手を出してきたのか。上手に手を引いていくような方向に行政は努力をすべきだと言ってきたが、平成元年度はどうだったのかを聞きたい。後は、市民への啓発がどこまで進んだのか。市民が、よいことをやってもらっているとされているのか。

<木曾委員>

ギャラリーかめおかで開催したイベントの評価が高いと言われていたが、そうではないのではないか。まだ市民に周知できていないのではないかという意見がほとんどであった。行っている人はコアな人ばかりであった。市民に周知徹底ができていないのか。

<山本委員長>

市民への周知啓発はどこまで進んでいるのかということ1点を論点としてよいか。

— 全員了 —

(3) 生涯学習推進経費

(事務局から論点整理資料の説明)

(執行部提出の評価資料の確認)

<木曾委員>

生涯学習賞について、国際的な人に賞を渡すのもよいが、もっと亀岡に特化した形の中での賞にすべきではないかという意見があったと思う。それを論点としていただけたらと思う。

もう1点は、俳句事業であるが、昨年、表彰式に御所まで行ったが、審査された人が本来は俳句というのは邪道だと言われた。俳句は下ネタから入っている。短歌が本来の形だと評価の中で言われてがっくりきた。それで、ふるさと産品を副賞として渡していたので滑稽だった。事業的な効果が本当にあったのか。今年もやっているが、ないのではないか。亀岡の人は少なかったように思ったが、実態はどうだったのかということを知りたい。俳句を実施した実態に見合う効果があったのかを検証したい。

<山本委員長>

生涯学習賞が、全国各地から受賞していただいているが、亀岡に特化した人にする方がよいのではないかということ、もう1つは俳句事業経費で、事業的な効果が本当にあるのかということについて、論点としてよいか。

<三上委員>

選定理由では、ガレリアかめおか指定管理料について、使い勝手は悪いし、音響も照明も悪い。今後もどんどん老朽化していく。今後の在り方を考えていかなければならないが、この施設を維持するために、令和元年度も修繕などをされたと思う。毎年、2億円ほど入れていかなければ成り立っていない。そういうことが選定理由にはあるので、そういう論点も必要ではないか。

<山本委員長>

ガレリアかめおかの施設として、今後の在り方ということ論点としてよいか。3点に絞るということでよいか。

<木曾委員>

梅岩の里生誕地整備事業については、寄附金を募ると言っているの、後で検証をしていかなければならないと思う。それは後でよいと思う。

<山本委員長>

3点を論点とする。

(4) セーフコミュニティ推進事業経費

(事務局から論点整理資料の説明)

(執行部提出の評価資料の確認)

<石野委員>

認証して15年になる。市民認知度を高めるために、全市的にやっていかなければならないと思う。今はモデル的にやっているの、セーフコミュニティが知られていない。市民認知度を高め、市民参加型でできるような方策をしてほしい。

<木曾委員>

認証の中間の時期にしっかりと議論しておかなければ、予算をたててしまうとやめることができなくなってしまう。今、方向を決めていかなければならない。認証にあたる部分で、今後どうするかということ整理しておかなければならないと思う。

認知度が無いのであれば、亀岡に特化した中で、自治会でやっていけるような方法を考えていかないと、認証にこだわってしまうと難しいと思う。

<山本委員長>

認証取得について、今後どのように考えているかということ、1点を論点としてよいか。

— 全員了 —

3 その他

<山本委員長>

事務局より、決算審査日程等を説明願う。

(事務局次長から、決算審査日程及び決算審査に係る決算カード等の追加資料の配付について説明)

<山本委員長>

今回は、9月16日(水)午前10時から全体会、引き続き、午前10時30分から分科会を開催し、決算審査をよろしく願います。

散会 ～17:48